文化を運ぶ　路面電車

路面電車がわが国で初めて走ったのは京都であるが、高知では明治三十七（一九〇四）年五月二日に、全国で十番目になる本町線、潮江線が開通し、初めて土佐路に路面電車がお目見えした。土佐にはぐくまれた自由民権運動に見られる逞取の気性と、当時高知で活躍していた政財界人の先見の明（めい）と努力によるものであった。

順次東に延長してきた軌道は、明治四十四（一九一一）年五月十四日、遂に後免町東町まで複線で開通した。これより先一月二十七日に大津、後免中町間が開通し、二月十一日の紀元節（現在の建国記念の日）に、大埇の長岡郡役所北側で開通式が行われた。

はりまや橋を発して葛島橋を渡った電車が高須村、大津村（現高知市）を経て、大篠村、後免町（現南国市）へ人々と共に文化の薫りを運んでくるようになった。

また近代化の進む高知市へ、人々は車窓に広がる香長平野、舟入川、国分川の風景を楽しみながら、出掛けるようになった。

※参考文献
南国市史、土佐電鉄八十八年史

◀源希義戦死の地
（蓮ケ池中正門北側）
源頼朝の弟。頼朝に応呼して平氏討伐の兵を挙げるが、やむなくこの地で戦死。

▶日吉神社
後免町創立記念碑が神社南方公園内にあり。

◀土曜市（後免東町電停南へ徒歩約5分）
朝早くから買物客でにぎわいます。

後免町
後免東町
後免中町
後免西町
東工業前

◀下崎神社（小篭通電停北へ徒歩約11分）
安産の神様。市内はもちろん、県内外からの参拝客が絶えません。

◀武市瑞右衛門記念碑
（住吉通電停西へ徒歩約1分）
1651～1657年ごろ、東天紅、山鳥などを交配してオナガドリをつくりだす。

◀しょうぶ園
（篠原電停南へ徒歩約5分）
5月下旬～6月中旬が見ごろ。

▶春賞神社（篠原電停西南へ徒歩約2分）
土佐の国府敷の跡が残っている。

▲柏水（東工業前電停西南へ徒歩約10分）
源希義が平氏討伐のおり、この地で農夫から柏の葉に盛られた泉水をもらう。

住吉通
篠原
小篭通
長崎
明見橋
一条橋
清和学園前
（至高知市）

東道路

電車のちょっといい話

「お城下へ行く」「高知へ行く」子供のころの最高の心ときめく出来事も電車とともにありました。「今ごろどこでどうしゆうろう」と懐かしく思い出される人がいるのも電車です。

窓の外が見渡す限り緑のじゅうたんになった6月ごろ。8月の稲刈りのころの窓からの風のにおい。私たちにとってそれぞれの思い出が詰まった路面電車。

電車にまつわる思い出話やちょっといい話をお寄せください。

◪締め切り　4月8日(金)
◪宛て先　市役所企画課広報統計係
（〒783　南国市大埇甲2301）

▶明見産山古墳（明見橋電停南へ徒歩約5分）
土佐の代表的な古墳の一つ。円墳で、内部は長行五・七㍍、幅二・一㍍、高さ二・三㍍。

◀武市花之丞の墓（住吉神社東へ徒歩約5分）
藩政時代、桜の木を各地から集め住吉神社に植え、桜の名所にした。